

NGO 国際子ども教育基金アフガン支援は バーミヤン州で唯一の孤児院 [アシアナ・サマール]を支援する プロジェクトを遂行しています。

バーミヤン州で唯一の孤児収容施設「アシアナ・サマール」は、政府からの援助のない私立の施設です。アフガン・ハザラ人女性医師、シマ・サマール博士が主宰するアフガン NGO 団体シュハダが運営しています。

アフガニスタンでは今も国際治安支援部隊とタリバーンとの間で戦闘行動や爆弾テロ行為がやむことはありません。そんな中で、首都カブールから遠く離れたバーミヤン渓谷では比較的治安は保たれています。このバーミヤン州は日本人と同じ顔立ちをしたハザラ人が多く暮らす所です。孤児院で暮らす子ども達も恵まれた環境ではありませんが、54名が助けあって暮らしています。

2010年4月にスタートした**第1のプロジェクト「標準的で安全なキッチン」「3つの浴室」「4つのトイレ」**の建設について、完了の報告がシュハダから送られてきました。

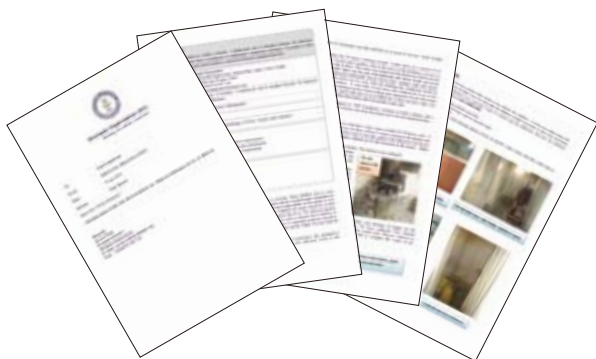


▲タリバーンによって破壊された石仏の近くに「アシアナ・サマール」はある。

◀青い屋根、手前が孤児院、後ろは小学校。標高2,000mに位置し、朝夕の冷え込みが厳しい。



▲年長の子どもが手伝って、全員で食事をとる。1日ひとり38円で賄う質素な食事だが、子どもたちにとってはうれしい時間だ。



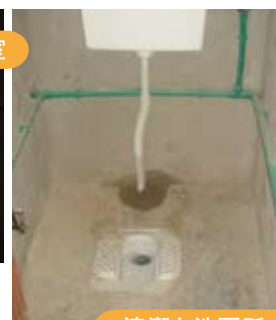
私たちの価値観で報告写真を見ると「えっ、これで改修したの」と感じられるでしょう。国際支援の原則は、豊かな国から便利な物を持ち込んで与えることではないと思います。私たちCEFIは「アフガンのことはアフガン人の手で行う」を基本にしてきました。資材も人材もできる限り現地調達で行い、手を出さずに見守る事が大切です。

今後もシュハダとの連携を密にして、女子の中学校教育、高校進学奨学金など教育支援を中心に行ってまいります。引き続き皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

第一プロジェクト完了



お湯の出る浴室



清潔な洗面所



便利になった台所

子どもたちにとって、いちばんうれしいのは、トイレやお風呂ができたこと。以前はお風呂はなく、お湯で体をふくだけだった。また、トイレは寮の外、50メートルも離れたところがあったために、夜こわくてひとりでは行けなかった子もいたという。今はトイレの後、石けんも置いてある洗面所で手を洗う。そんな普通のことを、心から喜ぶ子どもたちだ。